

## 録音反訳書

2017年10月20日

反訳：弁護士石原敬之

録音日時：平成26年7月15日

録音場所：いずみ橋法律事務所

会話者：渡邊彰悟（以下、「渡邊」という。）

阿部宣男（以下、「阿部」という。）

松崎参（以下、「松崎」という。）

1 渡邊：今日のお話の前提として、まずはお願したいのは、今日は色々  
とホタルの生態に関する話の前提としてさせていただきたいと思  
っているんですね。

その上で、私もそうだが先生方も含めて、我々も素人であるので  
阿部先生の方から専門家としての知見を含めたお話をお伺し  
たい。そこに関しては敬意を持ってきちんとお話をお聞きいた  
だきたい。

その後のことについて色々私の方から懲戒理由などについて  
内容面でのこちらの認識についてお伝えしたい。時間としては  
2時間を超えるかなというところですがそれでも御協力いただき  
たい。

早速先生の方から用意していただいたパワーポイントに従って  
お話いただくということで。いいですか、先生。

阿部先生で作っていただいたものがあるので、簡単に色々1  
月27日の生態調査を含めて見ていただきたいが、見ていた  
だくに当たりホタルの一般的な知識についても持っていた  
方がよいと思って。私自身も・・・いただいているのですが。

いいですか先生。

2 阿部：当然先生方もご存じかと思いますが、ホタルは世界で約200  
0種とも言われ、日本では、44種、46種、42種と言われ  
たりしています。

学術的には、44種 亜種と言われている。ゲンジボタルは、青  
森から九州までしかいない。学名は、ルキオラクルシュエタ。ル  
キオラは、フェニキア語をラテン語風にもじって、これからルク  
スという言葉が生まれた。

クルシュエタは、ゲンジボタルはちょうど胸の所に十字架のよ  
うなものがあり、赤いところに。これがクロスの語源とも言われ  
ている。体長は雄が15ミリ、雌は20ミリ。

産卵の数は、1匹当たり500から1000個くらい。

板橋は1匹当たり生まれたのが700-800個くらい。

ヘイケボタルは水中に住んでいるので、同じくルキオラという  
名前がついて、ラテラリツは、小さく輝く宝石のように輝くとい  
うこと。

ヘイケボタルは、沖縄を除く北海道から九州までの河川や水田  
にいる。おもしろいことにヘイケボタルは、ゲンジボタルの0.  
5ミリよりも0.1ミリ大きい直径0.6ミリである。

これはホタルの一生と言うことで、どこから始めるのが良いの  
かという部分で、孵化から始めたときは1.5ミリで幼虫の間9  
ヶ月間水の中で過ごし、翌年の春上陸して土の中で約40日間、  
成虫に成り1週間の命を終える。飛んでいるのは、求愛行動でラ  
ブコールであり、下にいる雌に対して雄が一生懸命光る。

雌1匹に対して雄が3から5倍多いということ。

3 渡邊：9ヶ月40日間というのはホタル館もほとんど変わらないので

すか。

- 4 阿部：同じです。板橋の場合は水温調整できたので10ヶ月というのもあった。夜間公開がありましたので水温調節などは頻繁にしなければいけない。

雄から雌を選ぶ権利は一切ない。気に入った雌が雄を呼ぶ権利がある。そのときに雄は、生存競争激しいので、羽をたたむことで引力の法則ですつと落ちる。それを昔の人が見て目がたれるといった。

野坂先生の火垂るの墓は、目たれの墓はここから来ているだろう。

星がたれるという人もいるが、英語ではファイアーフライであり、ひたれる方が良いのではないかということですね。

ゲンジホタルの卵は、基本的にはハナゴケやえごけ等に産卵する。約30万個の卵の輝きです。

- 5 渡邊：30万個の大きさはどれくらいですか。
- 6 阿部：こぶし大くらい。直径は0.5ミリ。同じこけなんです。これは中に入れた雌が、平均産卵数を出しておりますので。ランダムで5ペアを採取して足して5で割り今年ゲンジホタルの産卵数はいくつで、それに雌の数をかけるということになる。
- 7 渡邊：ちなみにこの写真はホタル館のものか。
- 8 阿部：そうです。シャーレの下に水を引いて、孵化幼虫ですが、この中に約30万匹いると。水中の中にカワニナを捕食している、ここにもいます1匹、2匹、3匹ですね。同じ時に生まれたとしても育っていく過程で全く変わってしまう部分がありまして誤差が出るのがおもしろい生態系である。この時から発光しているので、翌年発光ながら、上陸する。これもせせらぎの中なんです。

一期部分。たまたま植物の少ないところを見えたものですから撮影ができた。撮影できたのはこの1回しかないです。土の中に潜り土壌をつくりさなぎになる。さなぎの時も土の中でも発光している。これはヘイケですが。

さなぎから今度成虫に最後の脱皮をして、このまま土の中で3日間くらい過ごして地上に出てくると、地上に出てきたホタルは、仮に1週間の命として、5日間はじっとして、残りの2日でこのようにさあ求愛行動に飛び立つかと雌を求めて交尾して産卵するということなんです。

これが交尾前の雌で、交尾後の雌というのは違うのは産卵管が出ているという。これはホタルのギフトと言われている。最後の雄の雌へのプレゼントです。産卵管を出すことで1回交尾しかできない。

この雌はまだ交尾をしていないということになるんです。この中に筒が入っている。

羽化数の一番の求め方は、和光大学の堂前教授が中心となり、当時板橋区、京都大学、龍谷大学とかが、Xというのは最低5日間以上同じ場所・時間に飛翔している個体を計測するんですね。その場所から動かないで見た範囲を計測すると。

1日目50匹、2日目42匹、3日目55匹、4日目35匹、5日目53匹目撃して235匹なら、Xに235が入るわけですね3をかけて705という数字が出てくる。遼うよねということ。

3.9という数字を堂前教授が偏み出した。3.9で割り5日間の総羽化数が180.7匹だったとおおよそいえると。

- 9 松崎？：これとっても良いですか。



10 渡邊：後で印刷して。

11 松崎：かしこまりました。

12 阿部：国の特別天然記念物となっているゲンジボタルの発祥の地はこの数字で求めており、1日1日で採取するというのは基本的には間違えている。最低でも5日以上毎日同じ時間に見た範囲だけ計測する。成虫と言うことです。

ゲンジボタルの卵の場合、大体羽化率は0.5から0.7%なんですね。100万個いても成虫になれるのは5000から7000匹。自然界では0.05%に近づいているとも言われてるんですね。

ゲンジは脱皮の回数が6回、ヘイケボタルは卵が約70個で羽化率が5%自然界では1から2%。この0.5とか5%の数字はあくまでも板橋区ホタル生協環境間でのデータでこれを自然界に置き換えるというのは難しいと思います。

脱皮の回数は、自然界と同様。最初は孵化幼虫が当然いる。これは昨年の数字なんですよ松崎先生。490万のヘイケが30万匹程度がいたと仮定してですね、脱皮するときに2齢幼虫になるときに45万位、3齢で22万、ヘイケ20万の10万というかたちになっていくんですね。

1月30日の2齢から3齢の大きさが、この大きさなんですね。5ミリから8ミリ前後の大きさで、まるまるもともと小さくなる。ここにある線みたいなのは糞です。

これも孵化幼虫がスケールを置かさせていただいてですね、スケールをそっとおかないと幼虫がはじけていってしまいますので、孵化幼虫が約1.5ミリから2ミリというくらいですね。

13 渡邊：これも卵からかえったばかりの幼虫ですね。これは夏頃のもの

ですね。

14 阿部：7月のちょうど今頃、このくらいの時期にゲンジボタルがかえっていないと厳しいのかなど。これが2齢幼虫の5000匹の塊で、大きさは500円玉の塊より少し大きいくらい。こういうかたまりがずっとある。

15 渡邊：500円玉の直径の半球ですね。

16 松崎：500円玉に何匹くらいいるんですか。

17 阿部：5000匹です。

18 松崎：500円玉に5000匹？

19 阿部：500円より少し大きいくらいです。

これは正確に東京農業大学の修士課程の学生が2回ほどはかり正確な数字を求めてるんですね。一匹ずつカウント数えながらとなりますんで。

20 渡邊：これが孵化幼虫、これが顕微鏡の写真。

21 松崎：顕微鏡の写真なんですね。

22 阿部：これ動画なんです。

23 渡邊：始まってます？

24 阿部：いやまだですね。1ccに1500匹います。

ペットボトルのキャップにいれて顕微鏡で見せている。学習用として夏休みに子供たちに見せている。

25 渡邊：1ccでどれくらいいるんですか。

26 阿部：1500匹くらいです。毎年インターンシップに来た学生さんの作業で数えたんです。1.5ミリなので80倍くらいにしないとみえにくい。

27 渡邊：何ミリくらい何ですか。

28 阿部：1.5ミリ。孵化したばかりなんでね、80倍にしないと見え

にくいかなと。

これは顕微鏡の上から写真を撮った。今年の1月30日の映像なんですけども、せせらぎはこれくらいの幼虫がほとんどだったということになるわけなんです。それが板橋の特長で3月下旬から4月中旬にかけて大きくさせるものなんですけど。

- 29 渡邊：伸びているやつをみても4から5ミリ位？
- 30 阿部：5ミリ前後ですね。
- 31 渡邊：まるくなっちゃうと、1ミリ2ミリくらい。
- 32 阿部：そうですね。
- 33 渡邊：ちょうど5センチの5のところ3匹くらい固まっている。  
あそこのシャーレの中にある丸まっているのの幼虫ですよ。
- 34 阿部：あそこに5匹いますね。左の方に2匹重なっていますね。  
3の7ですね。9匹くらいですかね。  
5.6齢になると段々数が減っていった最終的に羽化率は6000匹前後  
ヘイケボタルは1万5000匹前後ということでございます。
- 35 渡邊：ホテル館においてですよ。
- 36 阿部：ホテル館においてです。自然界とは全く違うものがあるので、右下の写真は27日の年越しの幼虫なんです。大きさは5ミリから20ミリです。  
まだ小さいのいるということになります。  
たぶん先生ね、あそこの面積でマックスだと思います。3万とか4万なんて不可能に近い。
- 37 松崎：2万がマックス？報告でも1万9000とかありましたもんね。
- 38 阿部：2010年1月27日の推定ですよ先生、あくまでも。7から9万匹が大きくても10から12ミリ。調査で命を失われた幼

虫の推定が数万匹いて、生き残った幼虫の推定が数万から数千匹。

その後の環境ですね、私は2月7日以降ね足を踏み入れていないので、報告を聞くと荒れ果てている。こけも枯れて水流もないということなので環境の悪化も影響して幼虫さんの数も減っているかなと思います。

発光には3つあって、求愛光が人間の脳を癒やし、刺激光が風や震動や音とかで反射的に光ってしまう。威嚇光は、蜘蛛の巣に捕まったときとか何らかの形で移動したなどの時に威嚇光となるということです。

温熱環境パターンに及ぼす温度が高くなれば発光間隔も早くなり、低くなれば発光間隔が長くなるという論文の一部分です。ヘイケボタルにも同じことがいえたということになります。

富山とか天城とかいろんな各地の水質データを取りまして平均アベレージが下に書いてあるんですけど。PHに関しては7.5でアンモニアに関しては0.1以下。

- 39 松崎：川津は和光大学の学生たちがやっているところでしたっけ？
- 40 阿部：和光大学  
川津は伊豆の下田の二つくらい手前のとこです。筑波もありですね。水質に先生当てはまっているかどうかが一番の問題点です。
- 41 渡邊：一応一つ一つ。
- 42 阿部：pHは、アルカリか酸性かで弱アルカリが良い。NH4というのはアンモニアなんです。アンモニアは腐敗すると発生する。それから今度水の中にしか発生しない亜硝酸というNO2というのが発生し、それが今度分解されるとNO3という硝酸塩に



変わる。硝酸塩に変わったときは植物等が吸収して成長を助ける部分がありますので。CO<sub>2</sub>は水中にないと水草等が育たないということになりますので。GHは硬度。柔らかいか硬いか。日本は軟水なので、10度を超えない限りは、度数で言っているんで、これをミリグラムで表すと、2かける17.85するとミリグラムリットルになるんですけど。通常はドイツ記号で行うというのが基本なんですね。日本の水は軟水が多いということになりますよね。富山は2なので超軟水ですよね。裏磐梯もそうですね。天城も。CO<sub>2</sub>が多くて。KHは炭酸コードなので、GHに同じように比例しないといけない。KH炭酸エンコードとGH硬度はだいたい同じでないといけない。

次のCODは、化学的酸素供給量。ケミカルのCなんですけど。極力0に近い方がよい。筑波が0ですよね。

那須塩原は8だが、バランスがとれている水なんですよ。CO<sub>2</sub>、GH、KH、NO<sub>3</sub>が10で並んでおります。みなさん共通しているのはアンモニアがほとんどないということですね。こういうところを調べさせていただいて板橋の飼育に役立てていたということ。

まあ、旧温室の植物園からスタートして、母の故郷の大熊町から300個採取した。緑と文化の交流の所の栗山村から700個の卵。

閉館になったので学童保育の方に移動して現在の板橋区ホテル生態環境館ですと。

生態系を考えた特許まで取る部分なんですけど、まあそれが公式【24分頃】が誕生したということ。

先生ご存じですよね。

43 松崎：色々和本も全部読ませていただきました。

44 阿部：いろんな土を使ってですね、なんとかかんたん化出来ないか、普通のホテルの住んでいる土壌は複雑系なんですけど、最初板橋で行ったとき、11層から12層したがそうしないと自然界に近づける土でなかったんですが、なんとか出来ないか。自然になるようなことで出来ないかと開発していったのがこの土です。生態水槽ですよね。旧温室植物園で育成室というところで水槽を並べてどの土ならカビないか行った。当初ですねこれ。閉鎖空間でどうしたらよいか。水の部分と上陸部分と産卵の部分と3つが一体となり、そこでしょくちゅう【25分30秒】がどうにか出来ないか。カワニナ、ホテル、魚とかバクテリアがサイクルを担ってですね、自然繁殖なんかできないということですか考えついたのが生態水槽ですね。

45 渡邊：魚とか様々な自然環境を崩えていったのは委託業者のムシ企画だった？

46 阿部：水交換などはそうです。ただ土の入れ替えは一緒に行っていました。特許の部分がありますので、その部分は直接委託に教えて良いのかというのがあるので、その部分は非常に慎重に行っていました、笑いながらも慎重に行っていましたということ。

役割は、全国から23カ所のホテルを預かるということをはば目的地とすることと絶滅を回避するということで、当然ながらむこうでもいいですよという時は全てお返ししていました。マックスで年間300件くらい電話やメールやそれから直接来たりという相談がありました。

希少動物の保護ということで絶滅危惧種になっている魚や警察

の生き物係と一緒にミヤクイタマゴ?【27分16秒】の保護や  
オオサンショウウオの保護をやっておりました。

これはゲンジボタルですね。これは全部マスコミさんにお貸し  
した写真です。

この写真は、ヘイケボタルで、赤旗さんの日曜版に出たんですよ。  
お貸しをしたものですね。

この写真のヘイケボタルが一番よいかと思います。

これせせらぎの中ですけども、先生ガラスのこういうのがあり  
写真を撮ったりしました。

47 松崎：流れがありますからね。

48 阿部：先生ご覧になって幼虫が沢山いると言うことなんですね。真冬  
の1月は休眠状態なので、じっとしている状態で、水の流れは変  
わらないので、ちょっとでも足が入ったり、ちょっとでも下をい  
じくってしまうと流れて行ってしまいます。非常にその部分がホ  
タルさんの弱点でなんですね。  
何かに止まれば良いのに止まらず流れて行ってしまいますのがあります。

49 渡邊：これは何月のなのですか？

50 阿部：これは1月です。

51 松崎：さっきの1月とだいぶ大きさが違いますね。色々大きさがいる  
と言うことですね。

52 阿部：沢山いるんです。今年の写真ではなく以前の写真です。そこを  
すくってみると大小様々なものがあります。でも基本的には先生  
ね、大小8ミリから10ミリくらい前後ものがあります。  
小さいです。大きなカワニナではなく、ちゅうがいという稚貝か  
ら大きくなって、15ミリ程度のカワニナなので、幼虫の大きさ

は大体想像つくかなという部分です。

53 渡邊：今の基礎的なところを前提として、これをご覧いただきたい。  
松崎先生1月27日のビデオはご覧になっていますか。

54 松崎：いただきました。見えています。

55 渡邊：ほんとは阿部先生には見せるのは酷な状況なんですけれども。

56 松崎：調査のあれですね。

57 渡邊：見ていただきながらコメントをしていきたい。えっと飛ばしま  
すね。

58 阿部：あの事前教育の。彼あれですよ。全くヒキガエルとかカメム  
シとか??【31分59秒】

59 渡邊：これ今せせらぎの中にこの人がひざまずいて足を入れているの  
ですが、先生コメントを。

60 松崎：足を入れているわけですね。

61 阿部：これは入ること自体許されないことですね。入っただけで流され  
てしまう。ホントにね繊細なんですよ。そんなことないだろうと  
いうのは逆に人間のおごり高ぶりだと思います。彼らはそれく  
らい弱い生き物ということなので。

62 渡邊：今からですね。

63 阿部：ビニールに移した、マクロベントス、移したとするこの時点で  
つぶれてしまう。

64 渡邊：あの入れ方。

65 阿部：ふつうは水の中に入れてそっと移すのが基本なんですよ。

66 渡邊：こういう場面がたくさん出てくるんですけど、それはおいとい  
て。

67 阿部：水がない限り肉眼ではなかなか終齢でも見つけにくいと思いま  
す。同じような色にしているの。それ自体がおかしいかなと。



私もここまでは入ったことがないので。ここは区民の聖域だと思っていたので入れない部分でしたね。

ここで動いた途端に500円玉くらいのものがあったとしたら全部流れて行ってしまいます。

- 68 松崎：このビニールの流し方というか。
- 69 阿部：それもダメですね。
- 70 渡邊：いま閉じた。
- 71 渡邊：ビニールこっちにもってきてはら右手に持っているじゃないですか。
- 72 阿部：こういう時点で膿欠になってしまう。だって寝ている生き物ですから。それをいきなりこういうふうにしていきなりがさつつぶされてるのがほとんどかなと。こういうのはやらないので。マクロベントス法は基本的に国交省なんかでも河川で行うものなのにちいさなせせらぎでよかったのか。
- 73 渡邊：これほら、じゃぶじゃぶやってるじゃない。
- 74 阿部：これもダメですね。これつぶされていっちゃいますね。
- 75 渡邊：いまから彼が移動しますので見ていてください。
- 76 渡邊：はしごで歩くんですね、こんなかをね。
- 77 阿部：私は一度もこういうことがなかったので、これで流れて行ってしまいます。これが生態系にいいのかというのは疑問が残る部分だと思います。自分はですよ。  
クレソンですね。流れてしまう。基本的には流れてしまう。仮にマクロベントス法とったとしても、移すときに水がないで移すときは、地震で建物が上から倒れるようになるので、ホテルにוותつぶれて行ってしまいます。  
自分26年間やらさせていただいていたので。

- 78 渡邊：ほらほら手でかいて入れてる。
- 79 阿部：それもおかしいですよ。何万匹といるからよいだろうということではないですよ。どうも整理がないような気がして。
- 80 渡邊：これはどうですか。そのままバックにいれているのね。
- 81 阿部：窒息死しちゃう。あける時も本来だったら大量の飼育水に含ましてそっと移すというのが原則なんですけど。
- 82 渡邊：水がかなりの量で流れている。
- 83 阿部：はい。毎秒20-30センチ位必要になるんですね。そうしないと酸欠になる。
- 84 不明：循環水？
- 85 阿部：循環水です。濾過槽の中にも幼虫が流されてはいついた可能性もあるんですね。
- 86 渡邊：じゃぶじゃぶしてる。
- 87 阿部：洗う自体が幼虫が中で小さな幼虫ですとつぶれていってしまう。小さな幼虫ですと。これはどうなのと。
- 88 阿部：ビニールにつく前に死んでいる。つぶれているということです。
- 89 阿部：調査会社さんはたぶん蛍さんをこうするのは初めての経験なんだと思います。たぶん知っている方ならおかしいよねできないよねとなると思います。  
奥でも同じようなことが行われた。  
誰一人水戸黄門みたいな方はいなかったのです。ちょっと待てというね。自分はこの場にはいなかったのです。
- 90 松崎：この後ですかお越しになったのは。
- 91 阿部：休みの日だったので8時45分くらい頃ですね。
- 92 松崎：朝のですか？
- 93 阿部：そうです。

94 松崎：そのころには大体終わっていたのですか。

95 阿部：ちょうど入っていた時でしたね。

96 松崎：この撮影をしているのはどなたですか？

97 渡邊：ボランティアです。

98 松崎：ボランティアの人は早くからきているのですね。

この写真撮っている人たちに阿部さん呼び出されたんでしょ？

99 阿部：そうそうそう。でもどっちにしても水交換があるので休館日でも行かなきゃならなかった。その人たちに連絡ありましたが、あっそうで別に驚くこともなく。

100 不明：ここにバットに。

101 阿部：この公式もちよっと違っているところもございます。

102 渡邊：ここで開けられるんですよ。こうやって。

103 阿部：開けてますよね。普通ここに水をためておかなければならぬルールがあるんで。乾燥ではないのですが水から取り出した状況ではなかなか見つけるのは困難です。基本的には無理です。水にいて振ったりとかもダメです。みんなつぶれていってしまいます。山崎さんに話すんですけどね。こういう公式じゃなくてちゃんとした公式でやったらとね。いやいやこの公式なんだということなのでまあいいかと。でもこれだけ犠牲があるのであれば。まずいよね。

104 不明：手でほらすくいあげてわけあって。

105 阿部：こういうのも不必要な作業ですね。犠牲が拡大したという部分ですね。これがほんとの公式かなのかというとは決して本当とはいえない。これが絶対とはいえないという部分ですね。

こうよりわけないんですけどね。水の中でそっとより分けないといけないかなと思います。大きな動物とかをやる場合ならよ

いと思います。そのことはどうにか考えないといけないのかなと。これが正しいとなると、これが日本中で行われたとしたらホテルの数が激減するかなと思わざるをえない部分ですよ。たぶん専門家に見せてもこれじゃ見つからないでしょと言われるでしょうね。

自分も先生ね。接触していないんでね、基本的にあまり人とは。ため息しか出ない。

106 不明：これは5ミリくらいの大きさですか。

107 阿部：だからその中で見つかるはずがないですよ。

108 不明：これ誰ですか。

109 阿部：山崎さんなんじゃないかな。環境部長と高橋くんなんじゃないかな。

110 渡邊：だから大きさに関するニュースが全く間違っているんですよ。そういう認識で彼らも言われているはずなので、実際に調査している業者ですね。だからやりかたがものすごく。

111 松崎：山崎部長はこの事件1センチ5ミリ以上のがいるはずだと。絶対見つかるはずだと言っていた。

112 渡邊：それは写真を見てもらったりしたとおありえないんですね。ここでもこうやってザルをふっていますよね。わかります、わかります。

113 阿部：ザルふった時点でつぶれることがあると思います。

114 渡邊：しかも先ほども見ていただいたスケールで図っているような幼虫からするとザルを通っちゃうんですよ。この穴を通っちゃうんですよ。

115 不明：そうですね。

116 阿部：乱暴だよ。こういう状況ではなかなかみつからないですね。



見つからないと思いますこういう状況では。つぶれていってしまうことになるので。これが正当となればちょっとこれは問題なのかなど。上から先生流しますよね。水圧でつぶれてってしまう。当然生き残るのがありますが、つぶれてしまうので。言葉を悪く言えば意図的なのだといわざるをえない部分もなきにしもあらずなのかなど。ただ単にマニュアル通りであれば、国交省が出したマニュアルですから、それがホタルの調査にはイコールにならないような気がします。これ本当は計ったときに第三者がいて第三者が計測し直すんですよ。水も何も中身も見返すんですよ。

- 117 渡邊：ちょうど一区切りの映像がありますので、それを見て・・・
- 118 渡邊：今からこの人がビニールからここに出して、その出したものを一通りの作業をする工程をちょうど見る事が出来るので、これを見ていただこうと思いますけど。
- 119 阿部：まずこの時点では、こういう出し方を本来しないですが、中に水を入れてそっと移すのが原理原則です。
- 120 渡邊：これで水入れますよね36分40秒くらいですが。
- 121 阿部：この方水を上から入れちゃうんですねこの方。下に入れないといけないんです。バットの方に入れないといけない。上から入れちゃうとつぶれてしまう。
- 122 渡邊：ざるから下の方に流れてしまう。
- 123 松崎：ざるの目からね。
- 124 阿部：彼らは15ミリ以上という頭があるんで。たぶんですよ。15ミリ以上というのがあるので。人間は思い込みが激しいので若し仮にそうだとでも見逃してしまう。だから第三者が必要なんですよ。もう一人の人が検証していく。また上からかけてます

よね。

- 125 渡邊：ザルを抜け無いという感覚ですよ。
- 126 阿部：でもザルを抜けてしまっている部分がある。ふっていると。がれきの下に・・・【46分40秒】とにかく上から人が踏んでいくというようなものですからちょっとやばいかなど。これが正当とはとてもいいづらい。こういうのはあまり自分の中にはなかったで・・・【46分50秒】
- バイガモとかタヌキとかなんかの植物も被棄されちゃうんですよ。戻したと言っているんですけどね、一部は戻したのかもしませんが。私は飼育室の方にいたんで昼夜逆転にいた。
- 127 不明：立ち会っていないんですか。
- 128 阿部：立ち会いはですね、いいからと言うことなんですよ。
- 129 不明：このときはホタル館の別の部屋にいらしたんですよ。
- 130 阿部：そうですね。これもだめですね。
- 終齢でもつぶれちゃいますよ。こんな大きくても柔らかいんですよ。すぐに潰れてしまいます。非常に薄い皮膚なのですぐ潰れちゃいます。
- 131 渡邊：さっきの幼虫だとするとこのくらいのやり方では、こっちにもある可能性がある。
- 132 阿部：それを再確認しないといけないかなと思っています。それが本来かなど。せせらぎが維持されてればいいんですけどね、されていないということで悲しいですね。
- その中にいるという仮定なんですよ。ザルの中に。水がね、でもこの水は捨てられちゃうんですよ。普通を考えにくい。記録があれば第三者が見て再度確認をすると。普通には考

えにくい。

- 133 渡邊：こんな風に平気で歩いたら？潰れますよね。
- 134 阿部：普通には考えにくい部分ですよ。
- 135 渡邊：下にいるという感覚が少ないですよ。
- 136 阿部：全くないですよ。
- 137 阿部：カワニナの中のスポイトで水分取っているのですがやり方が乱暴。すいとるんじゃなくて水の中にエアーを入れて追いつ出すというのが一般的。そうなんですよ。向こうにね、すいているんですね。この場面ではわからないんですけど。ただあそこの足下のいる所にヘイケボタルが多くいますのでね。これで見つかるわけがありませんよね。一般的に。  
彼らもね一生懸命彼らなりにやっていたんだろうな。  
まあ自分も26年間やらさせていただいていたんでね。それがね絶対的に。
- 138 不明：??【51分】ですよ先生。
- 139 阿部：これはだめですね。原則としてだめですね。  
ボタルさんから何するんだと訴えられちゃいますね。これですからね。これはちよっとまずいですね。
- 140 渡邊：あんなんで幼虫が見られるはずがないですね。
- 141 阿部：はずがないですよ。
- 142 渡邊：これ見てください。驚きの。
- 143 阿部：驚きの。これ一連なんですよ。これを見て正しいという人がいたらね、生物学者の家に泊まりたい。振込を知りたいと思う。確固たる根拠を知りたい。これで終わりなんですよ。
- 144 渡邊：これで終わりなんですよ。ゼロって書いてありますね。これでお分かりいただいたようにあの分量を彼が36分45秒くらい

にあけて、今かき入れたのが44分20秒なんですよ。7分50秒くらい7分40秒くらいなんですよ。7分40秒で先ほどお見せしたような幼虫が見つけれられるはずがないんですよ。こんな言い方をすると。それをわかっていたきたい。

- 145 阿部：1時間30分くらいゆっくりあの一5ミリ程度ですよ。
- 146 渡邊：もし先生があれだけの分量を正確に測ったとしたら何匹くらいいたと推測されますか。
- 147 阿部：数百くらいは絶対いたかも。数千かもしれない。もし仮に足を踏み入れていないと仮定してですね。それくらいはいて当然かなと思いますね。
- 148 不明：阿部先生は立ち会わなかったのですか。別室にいたのに立ち会わせてもらえなかったのですか。
- 149 阿部：そうです。基本的には立ち会わなくてよいということで。立ち会わせてもらえなかったんですよ。
- 150 渡邊：もともと抜き打ちでやっていますからね。
- 151 阿部：全く相談すらもなかったんです。報連相が全くなかったんです。報告連絡相談がなかったのです。
- 152 渡邊：まあ阿部さん抜きでというのがもともとあったのかもしれない。
- 153 不明：それでずっとやっていくんですけど、報告書の中でですね、調査した内容物を戻していると書いてあると思うんですけどそれが嘘だとわかる映像戻して。
- 154 不明：排水溝にすてる場所ですよ。
- 155 阿部：先生排水溝ではないんですよ。ここ。  
地面にですよ。単なるグレーディングだけなんです。ぐちゃぐちゃになっちゃうんで。



ただ置いておいただけなんです。

- 156 渡邊：単に捨てただけなんです。
- 157 不明：そこは水がしみこんでいだけ。流れるというより。
- 158 阿部：水はしみこんでいだけで、流れるというより。排水溝は別にあるんです。そこから50センチ離れた左返しのほうのせせらぎのほうにある。
- 159 渡邊：1月27日の生態調査は懲戒免職の根拠になっていませんので、我々が裁判の中で何かいうのは正面きっては違うんですけど、でも明らかに板橋区は懲戒免職に向けて動きとしてこれを行っていたと僕らは思っているしそれが思うような結果を導けなかった。つまり、思うような結果を導けたんだな。2匹しかいないというのはそういうことだったんだけども、このビデオの存在はものすごく大きいと私は思っておりまして、このビデオの存在があるがゆえに板橋区はこれを根拠にすることはしない出来ないと、するとマイナスになると判断したとこれは私の推測です。平先生とか他の先生方の再調査を求める文章でいたしましたしこれに答えることなく別の理由で・・・【56分50秒】
- 明らかに本来こういったビデオ映像がなければ板橋区はこのことを理由にして懲戒免職したんだろうなと私は思っておりますがそれは出来なかったと。
- 160 松崎：これは発見された2匹ですね。
- 161 渡邊：これあの2月7日のですね。なんだっけ。
- 162 阿部：テストバックのこうほうとかですね。引継ぎとかですね。時間がなかったんでまた今度ゆっくりねと。
- 163 渡邊：この映像見ても彼らにはホテルについての知識がないということがよくわかるということが出てまして。これあの2-

ん中に成虫いたんですね。成虫じゃないや。

- 164 阿部：幼虫が、初めて見たんです。
- 165 不明：発見されたやつですよ。2匹の。
- 166 阿部：2年越しのゲンジだよってっています。
- 167 渡邊：先生としてもなかなか珍しいねと。
- 168 阿部：1月で終礼というのは厳しいんですよ。その分だけエサも当然あげてないし。だから小さく育ったほうが効率的んですよ。途中で年越ししちゃった。
- 169 不明：これくらい大きくなるとこんなふうに石ひっくり返してもいいんですね。
- 170 阿部：先生、ここでも20何匹いたんですよ。今ちょうど私の中指の黒い点の所が幼虫なんですけど確か三浦かよちゃんに引き継いだんで聞けばわかると思います。おチビちゃんが。このふにやふにやな状況なんですね。
- 171 不明：まだ生きてるんでしょ。
- 172 阿部：生きてます。もうちょっと先生少し戻して。
- 173 渡邊：戻す？
- 174 阿部：ほんのちょっとです、OK ちょうど中指のところに幼虫がいるんですね。先ほど見たあれくらいの。
- 175 渡邊：まだいるじゃんというのがそういうことなんですね。さっきうまくいったんだけどね。止めるタイミングが。
- 176 松崎：なかなか写真見せるのとね。見えたような。今指の間に入っちゃったのかな。
- 177 渡邊：だからそういうのを彼らは全く見つけられないんですよ。
- 178 阿部：いたねちょっと流れた。
- 179 渡邊：真ん中にいましたね。黒い丸が。こういうのを彼らは全然見え

てないんですね。

- 180 阿部：ハーブの匂いがあるんですよこれ【1時間1分】
- 181 渡邊：彼らは雄雌もわからないし。これが2月7日の映像です。
- 182 松崎：はいどうもありがとうございました。
- 183 渡邊：こちらのホタル飼育に関するこちらからは今見ていただいたようなことなので。こういったものもですね。施設管理日誌。これは別に先生が持っていていいものなんですね。
- 184 阿部：そうですこれは条例施設も何もなかったのですね。自分で作って自分で決済をとっていたのでいいだろということで行ったわけです。
- 185 松崎：これも見えます。この間資料要求をして出してもらいました。
- 186 渡邊：あーそうですか。
- 187 松崎：ただ、去年の11月からの分が、11月までか。12月・1月のが出ていないということで全部ではないですが、私がもらっているのは去年の分ですね。今見たのと同じ。
- 188 渡邊：とりあえず飼育をずっとしていた実態とホタルの羽化とか幼虫がどんな風に育っていったか。飼育記録簿というのがありまして。
- 189 松崎：それも見えます。
- 190 渡邊：こういったものもご覧になってますかね。
- 191 松崎：記者会見の時これも写しを配られましたよね。
- 192 渡邊：全部ではなかったけど。こういう形じゃなかったけど。こういう形のもあったかな。
- 193 阿部：ありましたね。
- 194 渡邊：こういうかたちだったかな。こちらとしてはまあホタル飼育の実態については、ご認識いただきたいなと思っているところで。

- 195 松崎：質問してもよろしいですか。私もこの一連のやつはね。こんな長くはみてはいないですが。いくつか正直言って疑問のあるところもあります。調査の件からいうと流れてしまった潰れてしまったというご主張は説明になるとは思うのですが。問題なのは死骸が見つからないのがなぜか。
- 196 阿部：先生見つからないです。死骸はとけちゃうんです。
- 197 松崎：とけちゃうとはどういうことか。
- 198 阿部：バクテリアがついてるから。
- 199 松崎：いやいやだけどその日のうち溶けちゃうんですか。
- 200 阿部：潰れたりとか。絶対いたはず。絶対いた。さわれなかったからね。
- 201 渡邊：あの辺に塊ある。
- 202 阿部：いたはず、絶対いた。
- 203 松崎：阿部さんもその場所に部屋は別だけとしてもいっていたああいう風に撮影しているボランティアもいた。ほかの映像には樋口徳治さんなんかもうつりこんでいたのがあるんで。徳治さんはだいぶ詳しい方ですし。そういう方がいたら僕が排水溝と思っていたあそこに捨てた段階であそこのものを確保するなりすれば一番よかったのかなと思って。
- 204 阿部：先生、おっしゃるとおりですが触るなど触れてはいけないというルールがあっていたので。
- 205 松崎：その辺も証言が食い違っていてまして、この間の住民説明会の時に樋口さんがおっしゃっていたのですが、阿部先生が動くなどボランティアスタッフに、動くといざこざになるので後々のことがよろしくないから動くなど命じたので樋口さんなんかは目



の前でホテルが死んでいくのがわかったけど泣く泣く見ていたとおっしゃっていました。

206 阿部：要するに自分が上からの命令があるものでしたから当然ですがそこに関連しているボランティアの方々にも動かないでねということになりますよね。

207 松崎：いずれにしてもちよっとね。殺してしまったんだったら死骸があればよかったかなという思いもあり。

208 阿部：でもね先生。そのときね。触ればかなりの量見つけられたと思います。自分はずですよ。ただ一切触るなど。せせらぎの鍵も旋錠されて穴も埋められて監獄にいるように顔で巻かれて。入るなですから。調べようがなかった。もし見つけられるチャンスがあるなら見つられましたね、先生。

209 松崎：そもそも成虫2万引きという話なんですけど。マックスだとおっしゃるんですけど。今最初のほうの映像で孵化幼虫から育つとか見ました。私もそうだと思います。

問題なのはせせらぎでどう育てたのかということと思うんですが、この日誌なんかでもホテルの孵化幼虫水槽20本とか。水槽で当初孵化幼虫を飼育するんですよ。

私の持っている日誌の写しだと、水槽からせせらぎに入ったところが11月から7月までめくってみてもないんですけどそれはなぜかなと思って。

210 阿部：本数が減っているところがあると思います。

211 松崎：減ったり増えたりするんですけど。

212 阿部：それは調整するので、孵化幼虫水槽というのは、孵化した時からずっとある水槽なんですわ。幼虫になるまで育てる水槽で名前も孵化水槽とするのが良いものを簡略化して孵化幼虫水槽と

した。

213 松崎：せせらぎではなくて水槽なんですよ。

214 阿部：水槽というかプラスチックケースです。

215 松崎：何本あったんですか。総数がわからないものですから。

216 阿部：マックスがガラスの水槽ですと30本近くありましたね。

217 松崎：なかには46本水を交換したとありましたけど。

218 阿部：こういう小さな。

219 松崎：いくつ水槽があったのですかね。調査の時に見つかってないんですよ。

220 阿部：重ねちゃいますからね。

221 渡邊：調査の時はいつですか。

222 松崎：1月27日です。

223 阿部：その時は全部ありましたよ水槽。裏にエアコンがあるところがありましたよ。大型の。

224 渡邊：せせらぎのところではないでしょ。

225 松崎：いまだにそれが見つかってないんですよ。

226 阿部：プラケースあります。おいてきてありますので。エアコンのところです。飼育室に入ると右にエアコンがありそのわきに重ねてあります。

227 松崎：後で聞いてみます。数は30くらいですか。

228 阿部：これくらい大きいですからね数は30本くらいですかね。

229 松崎：30本あって、20本20本と毎日ほぼ同じ水槽の水を交換するのか。

230 阿部：3分の1とか3分の2とかを交換します。

231 松崎：例えばすいません、これでせせらぎに孵化幼虫水槽からせせらぎに戻したのはどこになるのですか。5月というのは前の世代

のあれですよ。

- 232 阿部：ようするに翌年の方なので。翌年の方なので。
- 233 松崎：6月に成虫になるのだから。
- 234 阿部：5月ですよ、5月に上陸に入るので。ゲンジボタルは。
- 235 松崎：いやいや僕が知りたいのはいつからせせらぎにいるのかと  
いうことです。
- 236 阿部：せせらぎは元々いる幼虫もいますので。
- 237 松崎：いますけど孵化水槽にいたのはいつまで。
- 238 阿部：5月頃までいますよ先生。引っ張っているのも飛んできますの  
で。
- 239 松崎：そうすると1月27日の捜査の段階も水槽にいたのもいたと  
思うのですが勘定に入っていないのですか。
- 240 阿部：入っていないですよ。
- 241 松崎：それはどこにいったのですか。
- 242 阿部：いやいやわからないです、おいてきちゃっているのです。それは  
ガラスケースにおいてきちゃったのです。
- 243 松崎：1月27日にどれくらいいたのですか水槽に残っていたのは。
- 244 阿部：2000位ですかね。
- 245 松崎：2000位、じゃ区の方が井上課長がどこか隠しちゃったので  
すか。
- 246 阿部：それはいえません。自分いじくれないので、いじくれない状況  
にあったので。
- 247 松崎：僕が一番知りたかったのは水槽にいたホタルが全然カウント  
されていないので報告にも上がっていないので元々。
- 248 阿部：であの委託の会社さんの方には生息水槽とかこういうのもの  
沢山いるので、カウントしてくださいとお願いしました。

- 249 松崎：そうすると僕が区の方から聞いているのこの話はガチンコ  
になっちゃうんですよ。見解の違うと言うよりあるかないか  
の話になっちゃうから。  
殺した殺さないというのはなんというか見解の相違と言うこと  
でわかるんですけど。
- 250 阿部：それは調べてくださいとお願いしてあります。
- 251 松崎：水槽が2000もかっている。
- 252 阿部：おおよそですよ。
- 253 松崎：おおよそでしょうけどそれくらいの数はいたというので。
- 254 阿部：いただろうと思いますね。
- 255 松崎：そうすると阿部先生が当時7万匹いたとおっしゃっていたホ  
タルのうちその2000匹くらいはいたということですね。
- 256 阿部：水槽ですね。全部の中のいるだろうという感じなのですね。水  
槽には入っていないとしたら温度調整が間違っているのかなど  
いう部分があると思います。  
あつ、これですね。ここにホタル孵化幼虫水槽48本から4本と  
する終齢幼虫せせらぎ移すとありますね。ここで5月の1日に  
移していますね。
- 257 松崎：5月の1日というのが幼虫ですよ。
- 258 阿部：幼虫ですよ。終齢幼虫という。
- 259 松崎：5月1日にせせらぎにかえされたホタルはほとんどせせらぎ  
の中では過ごさなかったということですね。
- 260 阿部：上陸をした。
- 261 松崎：だからほとんど水槽育ちで。
- 262 阿部：まあそうですね。
- 263 松崎：ほとんどここに書かれているのは水槽で育っていて上陸する



寸前まあ1ヶ月くらい前にせせらぎに戻したと。

- 264 阿部：10日くらい前ですね先生。
- 265 渡邊：きつとあのご質問の趣旨はね、例えば100匹成虫としてホテルが光ったとして最後にですよ。数の問題でなく割合の問題として。100あったとしてずっとせせらぎで育ってきたものが成虫になった割合とこのなんだっけ。
- 266 阿部：そういうことね。40何本というのは基準水槽みたいなものなので見学者とかに見せるためのものでいろんな形で。それを全部やるということではなく、せせらぎに前もって孵化幼虫はいれちゃうんですよ。6月か7月には。ほとんどうつしちゃうんですよ。
- 267 松崎：せせらぎで育つホテルは。
- 268 阿部：こちらの方が少ないです。
- 269 松崎：いやだからこちらの方がというのは水槽で育つのは少ないと。見学者用に水槽で育つのがある。ほとんどはせせらぎで。ほとんどの方は、いつせせらぎに戻るといふか入れるんですか。
- 270 阿部：孵化したとたんによくいれちゃいます。記録とか云々というのではないです。
- 271 松崎：確かあの一、こけに卵産んでその、最初は水槽だかあのあれに。
- 272 阿部：先生あのね、この水槽もガラスの水槽でなく、プラスチックのケースなのでそれだけ誤解のないように。
- 273 松崎：いやガラスでいいんですけど、とにかくケースに入れてそれを孵化したらすぐいれる。
- 274 阿部：すぐうつしちゃうんですよ。最終的に残ったもので、本数が多いのは壊滅状態になると水交換とか濾過そうとか必要になるので、数多くして中大きくしてみんなに観察用として子供たちなんか

に水槽をお渡しして一人が大切な何匹かいる幼虫さんの育つ過程とかみようねというのをやっていました。

- 275 松崎：わかりました。もうひとつさっきのスライドに出てきましたように先生の本に書いてある23カ所のホテルを預かっていたという話、あれはどういう風に育てていらしたのですか。
- 276 阿部：当時むこうから水槽例えば山口県であれば契約をする板橋区と豊田町が。当時、そのときにむこうで生体水槽にうつす幼虫さんを送ってきてもらうと。状況を見て水質とか見るために把握している。先生あのね、23カ所というのは、23カ所全部あったわけではなく。合計で23カ所なんです。
- 277 松崎：累計と言うことですね、のべですね。ただね、先生の書いた本の中にはその辺、累計かどうかははっきりしなくて。
- 278 阿部：ごめんなさいすいません、大変ご迷惑かけました。
- 279 松崎：朝日新聞が昔ホテルの卵にカビが生えたときに記事にしていたとき21カ所となっていて、本を書かれたときに23カ所に。
- 280 阿部：2カ所。すいません先生。23カ所あったわけではなく、累計で23カ所ですね。
- 281 松崎：それでね、区の方は23カ所は承知していないという態度なんですよ。23カ所はどこと聞いてもわからないんですけど、23カ所は具体的に地名でリストがあるんですかね。
- 282 阿部：ありますあります。
- 283 渡邊：それが今日問題になるんですかね。
- 284 松崎：僕が思っているのは23カ所といふか他の板橋で育っている大熊町以外のゲンジボタル以外の別の遺伝子をそこで混ぜないように飼育できるということを確認できていないもんですから。

- 285 阿部：その部分だけはしっかりと遺伝子の攪乱とかそういうのは混ざらないようにしていました。
- 286 松崎：具体的にどんな水槽。
- 287 阿部：生体水槽なんで、プラスチックのケースとかガラスの水槽とか。
- 288 松崎：2、3個なかったとして最高でどれくらい。
- 289 阿部：最高ですわね自分の記憶の中では8カ所位ありましたね。
- 290 松崎：8カ所、一時に8カ所プラス板橋、大熊の9種類の遺伝子を別個に育てていたこともあったというのですわね。
- 291 阿部：それは先生ずっとではなく、一夏だけ預かったとか翌年まで預かったという部分があるので。
- 292 松崎：このことを聞くのは持ち込み疑惑というのがありましたよね。とにかく預かったとかいうことにしよう、よそから一時的にせよホタルがよそのホタルが板橋を通過したという事実をはっきりしないと。
- 293 渡邊：それはないんですけどそれは懲戒理由になっていないんで議論してもしようが無いんじゃないかなと思いますけど。
- 294 松崎：ごめんなさい。私は懲戒理由というよりも、区議会で問題になっているのは2万匹のホタルを本当に飼っていたのかどうかということなんで。
- 295 渡邊：今日の映像を見ていただいてご理解いただけないですか。
- 296 松崎：あれをみてね2、3カ所かいてありますから。
- 297 阿部：ああいうときはね累計とかちゃんと言葉を誤解を生まないようにしないとイケないですね。
- 298 松崎：それとせせらぎの中に踏み入れないと話ですけど、私がちょっと疑問に感じたのは、一昨年2012年いわき市で放流していましたよね。あのホタルは、ホタル館で飼っていた大熊町由来の

- ゲンジボタルを集めていわきに放流したとのことですが、いわきに放流したホタルはどうやって集めたのかなって。
- 299 阿部：それはトラップ方式と言いまして、こういう小さな器にゲンジボタルやヘイケホタルがこのむちよっと酷なんですけど、特別なカワニナを、亡くなったカワニナ等をミックスした餌を中に沈めておいて2日位おいておくんですね。そこに入ってくる幼虫を区長の了解のもとおさえる。
- 300 松崎：区長の了解というのは坂本区長が了解したということですね。
- 301 阿部：坂本区長。
- 302 松崎：これは残念なことに口頭なんですよね。
- 303 阿部：大熊町の渡邊町長と千葉議長を同席でお願いした部分で。
- 304 松崎：ちょっと、この辺であの。
- 305 阿部：きいてない言っていないこと。
- 306 松崎：今日は技術的な話でね、確かあれは300匹でしたっけ。300匹をトラップで全て集めたということになっているんですけど、6月4日にいわきのほうに放流されて1か月後の7月にいわきの方で成虫になってホタル祭りをするという算段でしたよね。板橋の方は確か1週間か2週間位後にゲンジボタルの夜間公開があるということに。
- 307 阿部：先生ごめんなさい、それはね4月頭に大熊町からお話があったんです。震災で大変だからといわきの方に大熊町のホタルがみたいということで、主管課と相談の上、上陸しちゃったらホタルが捕れないので、4月の段階から準備をはじめていたんです。
- 308 松崎：4月から徐々に少しずつ、取られたのは水槽がなんかに移していった。それを6月に運んで。そうすると結構時間のかかる作業ですね。主管課は知っていたのですか。当時は、誰だっけ大迫部



長と矢島課長。

309 阿部：大迫部長と矢島課長です。

310 松崎：矢島さんとは僕もね、いわきの放流があったときに記事になったときに板橋区公認となってなかったからなんで冷たいことするんだと思い、話はいい話だと思っていましたので、なんで板橋の方に公認にしないんだと言った。

矢島さんが当時言ったのは、あれは阿部さんが自分として個人的にやったことですからと言われたのが印象に残っていたのです。

311 阿部：それが残念ですよ。私としては、公に区長のもと了解を得ていたと思っておりまして。

312 松崎：あれなんですかね、終わっちゃった後なんですよ。僕は朝日新聞で初めてそういうことやっていると初めて知って、あの記事大変いい記事なんでね。僕らの共産党のチラシにも使わせていただいたのでね。

いやいやその前に阿部さんにお話ししたときに震災の直後で大熊町のホテルがというのでね、ホテルを通じて大熊町支援をという質問をさせていただきましたよね。それが1年後に実現したのかなと思って喜んだんですが、ところが板橋区は矢島課長があれは阿部さんの個人的な仕事で、区はかかわっていませんよといわれて。

313 阿部：それは先生としたらちょっと待てよとなりますよね。

314 松崎：矢島課長は、前々から知って了解を得て4月からホテルを集めるのを知っていたわけですよ。

315 渡邊：おそらく僕がずっと話を聞いている感覚だと、その当然先生からしたら区の了解を取って主管課の了解を取ってやりつつも、

主管課としたら後は阿部に任せたそういう関係だった思う。

316 松崎：そうするとね、あのホテルは区民の財産ですよ。その区民の財産を誰がやったにしろ。いわば区民には勝手にいわきもっていっちゃったということになるので、僕らとしても捨て置けない話なんで、経緯というか解明していく必要があるので説明していただかないと。

317 阿部：先生に説明したとおり、大熊町から打診があってそれで準備を進めなきゃいけないねというのがあってね。高橋係長を通じて行っていったんですけど。それでみんななんかなると知らないとか、勝手にやったというのは、おかしいんじゃないかな。

318 松崎：いや僕らの感覚からすると予算が執行できないじゃないですか。あのお金はどこから出たんですか。いわきは例えば、他にも色々あるんですけど。

319 阿部：お金ですか自分のですよ。

320 松崎：それがまたね事態をややこしくしていて。

321 阿部：休暇で行っていると。

322 松崎：区が公認のもとでやるのであればきちんとなんというか出向として認めてね、ホテルも区の財産ですから、それをどう移動するか書類に残してくださいね、僕らとしても文句はなかったんですけど、その手の書類がなくてその辺はね阿部さんと言うよりも当時の副課長からしてずさんだったと思います。

323 渡邊：そっちのほうの問題だと思いますけどね。阿部さんからしてみたらね、区の信用を高めるためにいいことだと思って区長の了解のあった行ったものを後で主管課の人たちが知らないというのは無責任な話である。

324 松崎：その辺の所の方が僕らとしても問題だと思っていて。

- 325 渡邊：主管課の問題にしてくださいよ。
- 326 松崎：それにしてもどういことが起きたのか説明されないよ。
- 327 阿部：今話したのが事実です。
- 328 渡邊：しかも他の再生事業とかいろんな所に阿部先生出て行くわけですけど板橋区を通してだと契約している事業ももちろんあるわけですけど、その中で行くときもその時にも有給で休暇扱いとして行っているわけでしょ。主管課がそういう扱いをしてきたんですよ。慣行的に。
- 329 松崎：慣行的にって、それが結局ですね、書類も何にも残っていないので、大変困っている。
- 330 渡邊：大変困っているのは主管課でしょ。
- 331 松崎：僕らからしたら、阿部さんを議会に呼ぶわけにもいなくなっちゃって、それこそ主管課から話を聞くしか議会は出来ないんですよ。そうすると今みたいな話をされるだけですから。ルシオラとの関係でせせらぎ作りをこれは懲戒免職の事由にもなっていますが、これはあれですよ。免除する規定は私も探したんですけどないんですよ。
- 332 渡邊：先生、免除って言葉はないんですよ。そもそも。
- 333 松崎：今回の小山町。
- 334 阿部：小山町です。
- 335 松崎：小山町のことはルールがあったというお話なんですけど、ルールそれ自体がね。
- 336 阿部：それを決めたのは山崎さんですよ。それを決めたのは当時のエコポリスセンターの所長の。
- 337 松崎：それは僕も山崎さんに聞きましたけど、あれは特許とか特許料をはらってもらったという規定を作ったときに、規定を執行

- する前の時点の時に既に工事が完了しているものは当然いたかないということにしかならない。
- 338 阿部：そこに非常に大きな勘違いがありますね。  
私は平成14年度以前からおつきあいがあれば、14年をまたいだとしてもそれはそのままだという認識ですから。
- 339 松崎：だからそれがね。
- 340 阿部：先生、基本的に特許は誰が取ったのと言うと、私の発明で取っていく部分もあるんですけど、でもそれを誰が取る取らないというのは、誰が決めるのと言うのは本当は私は管理職が決めて欲しかった。決定権を。でもそれは阿部お願いねとなれば。
- 341 松崎：あっそうそう阿部お願いねといったのは誰なのか。
- 342 阿部：みんなそうですよ。
- 343 松崎：みんなって言わないで、誰と指名してくれたら僕らも追求の仕様もあるんですよ。大迫さんなのか、矢島さんなのか、森田部長なのか。
- 344 阿部：みなさん同じです
- 345 松崎：みんな同じというのではなくて、どういう形なのか、口頭なら口頭でいつとかいうのがあればね。例えば、阿部さんはホテル館にいるわけだから、部長や課長がホテル館に行ってそういうことをいったのか、あるいは阿部さんが呼び出される形で区役所の方に呼び出されて行ったのか。電話だったのか、手紙だったのか。まあ書類は残っていないわけですから口頭なんだろうけど、そういうちょっとディティールも含めて誰から言われたとかあれば私たちが動きようがあるんですけど。みんなそうだったと言われたら、それは申し分ないけど、なかなか本当かしらって話になっちゃう我々。通常ありえない話



ですもんね。区の正規の仕事の発注の仕方が、こうやってお金が  
歳入するかあるいは援助してしまうのかという話ですよ。こう  
いうのだって担当係長とか。

346 渡邊：先生の理解は、平成14年以前からおつきあいがあるところ  
については請求しない。免除というのは一旦立った上で免除する  
ということになるので、書類関係に免除するというのはいないん  
ですよ。基本ね。

347 松崎：わかりました。

348 渡邊：まずはそこを押さえた上で、14年以前についていうとおつき  
あいがあれば請求しないと先生は考えていてだから請求しな  
かった。

そのことについて主管課は当然小山町とやりとりしていること  
についてご存じなんだから主管課が14年の話はそういうこと  
なんだから請求しなければいかんというのであれば主管課が請  
求すれば良かったんですよ。それを今頃になって阿部先生が悪  
いというのはおかしいでしょ。

349 松崎：おつきあいということというとおつきあいということ自体も、  
ルールにないですよ。工事が完了しているかしていないかとい  
う話。

350 渡邊：それも口頭のルールなんで。

351 松崎：えっ。

352 渡邊：口頭のね。確かに特許に関する区の取り決めは平成14年何月  
からという話になっていますよね。

353 松崎：我々議会のことでいうと、特許の規定を作るときもかかわっ  
たりとか、阿部さんにあれは特許料発生したら6対4でしょ。区  
が6割、阿部さんが4割でしょ。割合決めるときも私も質疑に加

わって色々やりましたが、そういう風に決まりを作って初め  
て動くものなのに。肝心の特許料が発生する時に区議会になん  
の報告もなかったりとか、報告がないと言うことは、僕らの認識  
でいうと、ずっとここ何年かは特許料は発生していないと、せせ  
らぎの技術提供はしていないということだったんですよ。

354 渡邊：それは主管課の問題なんじゃないですか。

355 松崎：それにしてもなぜそうで阿部さんがかかわっていたわけ  
でしょ。主管課からの責任を追求するうえでも一件一件について。

356 渡邊：小山町しかないですよ。

357 松崎：小山町なら小山町で、いつどんなかたちでしていたはずだ  
ではなく、明確に説明を。

358 渡邊：それは今日これから説明しようと思っていてこれお渡しし  
ても良いのであの訴状の。

359 松崎：訴状まで。

360 渡邊：いや訴状はないんですが、訴状の中で引用している証拠なん  
ですね。特に能登町と小山町に関しては若干ご説明していた方が  
良いと思うので説明差し上げたいと思うんですね。

能登町に関連しては、甲11号証からなんですけど、これがおそ  
らくもっと前にももしかしたらあるのかもしれないですけど、  
我々が見つけている一番はじめの能登町から板橋区に対する依  
頼なんですね。在来種クロマルハナバチ飼育繁殖についての依  
頼。この裏側にですね。板橋区ホテル飼育施設における在来種黒  
マルハナバチ通年安定供給に関する研究は貴区のみが成功して  
います。クロマルハナバチ等の商業生産、実用化をする上で、板  
橋区ホテル施設にご協力、お力添えなしには実現できないので、  
この事業の協力を願いたいという話で始まっているわけなんで

すね。

当然これは板橋区に届けられている文章ですから。

そういう中で始まってこれ甲12号証かな、12号証だと思うんですけど。能登町の。その中にも能登町樹の認識として言われている部分で。

361 松崎：これも持っています。

362 渡邊：先生ため息つかないでください。52頁というところで田原義昭さんという方がいっている部分ですが、この事業は板橋区ホテル飼育施設の特許を使用し共同研究をしている武蔵野種苗園から女王ハチを仕入れて能登町が生産、小泉製麻が販売を請け負うというようなスキームで始まっているのですね。だからハチの供給に関する契約は、武蔵野種苗園と能登町ふれあい公社でふれあい公社から更に小泉製麻が販売するそういう役割らしいんですけど。小泉製麻はこちらは関係ないっちゃ関係ないんですけど。そういうスキームなんですね。

武蔵野種苗園がハチを供給する。ハチの供給や安定供給に関する支援とか協力を研究的な意味合いも含めて板橋区の方でそれをかかわるという体制ですよ。

363 松崎：ため息ついたのはですね。私がハチについてもですね区議会で受けていた説明とまるっきり違うんですよ。

マルハナハチわかっていたということは1回議会でもありまして。それこそ自民党の菊田先生がホテル館でハチを飼っているのはけしからんという質問したことがありまして、そのときの答弁をよく覚えているんですけど。ハチは販売したり、農家に販売するためでは一切なく、あくまでもホテルの飼育のために必要なものであるから飼っていたのだと思っていたところ、今回

の件の中で、初めてこういうものも出てきて、能登町にハチが行っていたとはじめて聞いて区議会に報告されていたのと全然違う話で。

364 渡邊：先生そこ誤解されていますよ。だって板橋区が販売していたのではないんですよ。武蔵野種苗園が供給業者ですよ。

365 松崎：それもただあの板橋の技術を使ってということですよ。

366 渡邊：板橋区がその技術の協力をするよ。

367 松崎：だから技術の協力をするという話自体がなかったわけですよ。別の議員も質問しているんですよ。ハチは売れるそうじゃないか。

農家に売れば売れるそうだから、収益になるから、ハチも公認の物にしたらいよという質問をした議員もいました。

そのときの区の答えは、やりません。あくまでもホテルの為に必要な範囲でハチは飼育するし、そのハチの技術もそういうふうにとどめますよ。

368 渡邊：その状況は先生全然変わっていませんよ。

この状況では、能登町の事業は板橋区は販売業者でもなんでもない。

369 松崎：だから、販売業者でないとしても能登町に。

370 渡邊：板橋区には経済的なメリットはなにも入ってないですよ。先生が行くだけです。

371 松崎：先生が行くこと自体がね、僕らが聞いてない話ですよ。

372 渡邊：それは僕らはわからないけれども、今先生のいっているようなのはそれは誤解ですよ。

373 松崎：何が？

374 渡邊：供給に板橋区がかかわっていたかのような誤解をしているの



は間違いですよ。

- 375 松崎：供給がされていなくてこれはどういうことですか。
- 376 渡邊：だから武蔵野種苗園が供給しているんですよ。
- 377 松崎：武蔵野種苗園というのは。
- 378 渡邊：つまり当初ね。
- 379 松崎：武蔵野種苗園というのは。しかも、ときおさんでしょ。綾部斗清さんが武蔵野種苗園だったんですよ。  
ボランティアスタッフの綾部斗清さんが武蔵野種苗園の社員としてボランティアスタッフとしてかかわっていたんですよ。
- 380 渡邊：それ問題ですかね。
- 381 松崎：私は問題だと思いますがね。
- 382 渡邊：全然その問題性がわかりませんが、つまり武蔵野種苗園が、綾部さんは蜂のことを研究をされていて武蔵野種苗園に元々いた方ですけど、武蔵野種苗園は板橋区の元々指定業者でしょ。
- 383 松崎：あの問題整理しますとね、いくらなんでも能登町という自治体と板橋区という自治体が、協力関係を結ぶのであれば実際に直接ね、お金の受け取りが経済的な利益があったとかなかったとか別にしても、技術を提供するということであるならば、ここに書いてあるようなことがあれば、きちんと報告されてしかるべきだったんですよ。
- 384 阿部：そうですね
- 385 渡邊：それはまた阿部先生の問題ではないでしょ。
- 386 松崎：だとしたら阿部先生の問題でないとしたら、なぜこういうことが未報告で行われたのかはっきりして欲しいんですよ。
- 387 渡邊：それは阿部先生に質問することではなくて主管課に対して責任追及すべきでしょ。

- 388 松崎：主管課に対して責任追及するに当たり、主管課に聞いたところこれももらったけど返事はしてないというか断ったとっている。
- 389 渡邊：はいっ？これみてくださいよこれ。
- 390 松崎：これはだって能登町が来たと言っただけの話でしょ鑑賞会のことでしょ
- 391 渡邊：来て板橋区の区長とあってハチの話をしてないとおっしゃるのですか先生。
- 392 松崎：ハチの話をしたかもしれないけどここまで書類が来ているのならなぜこれを受託するという書類がなかったのが問題なんですよ。
- 393 渡邊：受託する？
- 394 松崎：これは能登町から坂本区長に当たってお手紙なんですよ。依頼書なんですよ。じゃあ板橋の方から能登町に向けて公式の文書は何か出ているのか。
- 395 渡邊：そんなこと私知りませんが、甲17号証みてください。17号証は再び2月さっきの一番頭が20年の5月1日ですよ、21年の2月4日に再び能登町から板橋区宛てのこういう話があって日頃よりはクロマルハナバチ飼育生産に多大なるご尽力とご協力たまわり心より感謝申し上げます。お陰様をもちましてこれこれこうでこうなりますんで。先生ため息つかないでくださいよ。試験開始、飼育開始日のこの日にきてくださいと。こういう話でしょ。甲18号証みてください。2月9日。試験飼育生産技術の取得に關しまして、多大なるご尽力とご協力を賜り、忠心より感謝申し上げます。関もなく試験飼育を開始できます。研修会を開催いた

したくご多忙中誠に恐縮に存じますがご出席賜りますようお願い申し上げます。更に2月17日研修会講師派遣についてと申すことで、持木町長から坂本区長宛にきて講師依頼、阿部先生を講師として派遣して欲しいという依頼があって。阿部先生が3月4日に行っていますよ。区が了解していない状態で3月8日に阿部先生が行くわけないでしょ。

396 松崎: 3月8日に行ったのは、さっきいったようにハチは飼っている。ハチの飼育技術がある。

目的はホテルの為にだけハチは飼っている。能登町は、ハチを農家に販売するためという目的だけハチを飼う。ハチを飼うというところのつながりがあるんで、板橋としては阿部先生に講師の派遣について許可したということは聞いています。

397 渡邊: ちょっといっている意味がわかりませんが。供給業者がこの事業を能登町が始める。クロマルハナバチの全国展開をやるといふことについて板橋区が協力するということになったんですよ。

398 松崎: ちがうんです。全国供給とかそういう話は板橋区はかかわりませんと説明しています。能登町が全国供給するのに板橋区がやっちゃだめとかそういう立場にありませんから、能登町がやっている事業に対して、ハチの飼育技術というところについては、技術といっても阿部さんを講師として阿部さんを派遣するとこまではやりましょうということで派遣した。

ここに書いてあるように生産、ハチの生産とかなんとかだとか、今回の問題一番に言うと、合意文書ですか契約書になっていますよね。阿部さんがはんこついた、あの契約の内容については、板橋区は関知していないというのが板橋区の説明です。

今ここで出されている資料は、全て能登町から板橋区に対しての依頼やお願いやお誘いだったりするんだけど、私がもし阿部さんの側に立つのであれば、板橋区の側から能登町にどんな返事を出したのかというところの書類があったらいいんですよ。それが無いのであればね、阿部さんのほうでいつでもああいふ契約書を作る指示があったのかというのを、口頭だっておっしゃるのなら、もう少し具体的な名前とさっき言ったように場所はどこだったのかという話を明らかにしてくれば、僕らも区議会なら区議会で追求しようがあるんですけど。今、懲戒理由の話になると決定的なのは、ハンコなんですよ。阿部さんのハンコ。

399 渡邊: 先生ね。

400 松崎: いやね。ただそれは役所の仕事の中でないことは阿部さんもご存じだと思うんですよ。ああいう他の自治体、他の団体と契約結ぶ際に阿部さんの資格では契約を結べないというのはご存じだと思うんです。あえてなされたというのならそれなりにご事情もあるのでしょうかからその事情をきちんと説明していただきたい。

401 渡邊: でもね売買契約書及び秘密保持契約というのは、イノリー企画と能登町との間の契約ですよ。阿部先生がはんこ押すというのは能登町が要求してきたからやったので、それは信用の問題としてやったんですよ。

402 松崎: そうだとしても区の職員である以上それは民民とか公社とかあれだとするとイノリーと民民との間の契約に公務員がタッチしてハンコをつくということは公務員の仕事の進め方からいくとないことなんですよ。



403 渡邊：そこはね、先生のそういう風な言われ方に対してそうかもしれない  
ませぬねということがあったとして、先生はこれが懲戒理由に  
なると思うんですか。

404 松崎：はい思います。

405 渡邊：思うんですか？

406 松崎：今までのこういうこと許してしまえば公務員の倫理というか  
ガバナンスが全然ないと言うことでもんね、実際そうでも  
んね。

阿部さん一人が悪いとは思っていませんよ。僕が気づいていな  
かった雑誌とか、船登町から色々手紙が来て阿部さんこうして  
くれああしてくれというの区も知っていたでしょうから、知  
りうる状況にありながら結果として放っておいたことにも責任  
があるでしょうし。仮に阿部さんがおっしゃっているように契  
約とかこういうものにハンコをつくのには確認であろうとなん  
だろうと上司が知っていたのであれば大変なことですよ。だから  
こそなぜそういう経過になったのか。誰が知っていたのかとい  
うことを。

407 渡邊：それは先生が区の方で追求してください。

408 松崎：だからそれを教えてくれないと。

409 阿部：エコポリスセンターの川平係長。

410 松崎：川平さんが知っているのですね

その辺のディティールをつめるとどっちだったのですか。区役  
所の方だったのかホテル館の方か。

411 阿部：基本的にこういう話をするのは、ホテル館もしくは部長室で  
した。

412 松崎：これは覚えてらっしゃらないですか。

413 阿部：これは施設だったと思います。

414 松崎：ホテル館に部長が来て。

415 阿部：川平係長でした。今お辞めになられて、どっかの出張所にいま  
す。

416 松崎：ただ川平さんは係長だとしても。

417 阿部：その主任だったんで。

418 松崎：係長は確実に知っていたとしても当時の部長や課長が知って  
いたかどうか。

419 阿部：コピー基本的にコピーを取っていったんでそれをお見せ下さ  
いと言いました。

420 松崎：川平係長が書類のコピーを持っていったですね。

421 阿部：ということは、施設でした。コピーを取るという作業がありま  
すので。

422 松崎：係長ですから。そのときに係長の立場でやっていいよとはいえ  
ないはずですよ。普通は。

423 阿部：普通はそうですね。ただ船登町さんなんで、いいことなんで  
というのが大前提にあったんですね。

424 松崎：だいたい川平係長がでしゃばったことをしてくれたなど。

425 阿部：予算の方も削減されてるから土壌を飼わなくなったのもハチ  
のおかげだったんでということで、なんとか復旧したいよねっ  
ていうのがあったんですけど、こういう形で行くしかないよね  
と震災後だったのですぐだったんで震災で助けるしかないよね  
と。

426 松崎：もう少し言うとね、先生に悪いかもしれないけどイノリー企画  
という所の関係もちよっとね、正常でないなと感じています。イ  
ノリー企画の会社の実績としては駒野さん一人でしょ。

駒野さんというのはボランティアスタッフで、ボランティアとホテル館でボランティアしている人とハチの収益上げている人が先生は別個だとおっしゃいましたが、そのホテル館のボランティアスタッフとして浑然一体としているんですよ。

427 渡邊：それも含めて板橋区が当時は全部了解したんですよ、先生。その上で話が進んで行ったのでね。21年の7月1日の文書は、イノリー企画が存在していない時期の文書ですからね。そういうものも、あたかも変な文書を作られたというのは僕は懲戒理由にならないと思いますけどね。イノリー企画に対して先生もご覧になったと思いますけど。32というの。これは大迫部長。

428 阿部：大迫部長が作ったものですね。

429 渡邊：環境課の方で作ってるものなんですけど。

430 阿部：こうしたいよねということ。

431 渡邊：2012年の5月の文書ですね。

432 松崎：あー、こうしたいよねってやつね。

433 渡邊：これは駒野さんを含めた目の前でやっているわけなんですね。説明を。

434 阿部：これはホテルでやりましたね。

435 渡邊：ここにあるホテル生環境館ボランティアその他業者支援者というのがあって、こんなかに当然イノリー企画が入ってくるわけなんでしょうけれども、将来イメージとしてNPO運営化して説明書をホテル等生物多様性学習館にしてうんぬんとクロマルハナバチに関するノウハウも提供して収益あげるみたいねこういうスキームを環境の方で考えているわけですね。

436 松崎：これも聞いています。こういう書類は見えないけどもそういうことを当時大迫さんが、ハチも含めて、ホテル館を民間のNPO

なんか委ねる場合に、ホテルだけでは正直言ってお金にならないので収益部分としてハチも飼育しようという構想を持っていたことは私も聞いています。

437 渡邊：そういう中で前提はね私が言いたいのは、そういう方向性がどうかという評価だけの問題でなく、板橋区はイノリー企画という存在を重々承知したうえで言っているということですね。

438 松崎：板橋区が承知していたとしても、私は議会としてはね承知していること自体がおかしいと思っている。

439 渡邊：だからね、それはね先生板橋区の中の行政を問題にさせていただければ良いのであって。

440 松崎：その行政を問題にする上に阿部さんもその中の職員の一でずし、当事者の一人なのである程度の責任を感じていただかないと

441 渡邊：先生、現業で現場でね、一生懸命ホテルを育ててハチについても協力しろと言われて協力していたその人間に対して責任どうこう言う問題じゃないでしょ。

442 松崎：でも実際に責任を取らされているわけですよ、懲戒免職という形で。

443 渡邊：間違った懲戒免職でしょ。

444 松崎：だけど結果としては、ハンコをついてしまったと。権限がないにもかかわらず他の団体と契約を結んだ。

445 渡邊：あの文書一つのはんこで死刑にしますか。

446 松崎：死刑とは思ってませんよ。

447 渡邊：死刑でしょ。

448 松崎：だけどそれだけじゃないですもの。

449 渡邊：はい？



- 450 松崎：それだけじゃないですか、今は能登町との話をしていますが小山町もあった。
- 451 渡邊：小山町、いいですよ小山町の話をしませうか。
- 452 松崎：それだけじゃないでしょ、鍵も預けていたというのもあったし。
- 453 渡邊：鍵ごときで懲戒免職になりますか。
- 454 松崎：それが全部あわさっているんじゃないんですか  
で正直言ってあれが全部だということで終わらないところが問題の大きいところで、色々調べをしていく中でそれが。
- 455 渡邊：懲戒免職に関して言うと、懲戒免職の理由であげられたものしか懲戒免職の理由にならないですよ。
- 456 松崎：まあそうですよ。だけどそうだと私も十分懲戒免職の理由になると思っています。
- 457 渡邊：そうですか。そこは意見が全然違う。
- 458 松崎：それから阿部さん一人だけでそうなったかといえばそうではないと思っています。当時の管理責任とかあると思います。願わくば私はそういうこともろもろ出していただきたい。そのためには阿部さんにも協力していただいて、さっきいった誰が阿部さんにこういう指示を出したのか。なんでこういう風になっちゃったのか。  
能登町の契約にしたって、本来なら阿部さんがハンコをおすんじゃないかって阪本区長さんがこういうことをやりなさいと小山町もそうです。そういう風にするのが普通なはずですよ。それを正常な区の仕事じゃなく、全部阿部さんに責任を押しつける形で阿部さんの個人的な契約とすることで結ばせたって言うのが区の責任ならばそれを明らかにしなければならぬと思っています。
- 459 阿部：そうですね。

- 460 渡邊：それを明らかにするのが先生のお立場では。ところで先生の懲戒免職の処分について正当だという見解なんですね。共産党の地区委員会でしたらどうでしたか。
- 461 松崎：それはごめんなさい共産党の地区委員会としてこの問題について判断する材料はもっていませんから。
- 462 渡邊：先生の個人的な意見ですか。
- 463 松崎：個人的な意見じゃなくて区議団としても議員団としても当然だという見解で、議会でも答えていますし。ただ懲戒免職で終わるわけではありませんと。今後おっしゃるような区の責任とか管理職の責任とか含めて捜査しなければなりません。これが単に阿部さん一人をトカゲのしっぽ切りだか、人身御供ということにして。阿部さん切りをして終わらせてはならないという立場ではあります。
- 464 阿部：確かにね。
- 465 渡邊：阿部さん切りをしたかったんですよ。
- 466 松崎：それは見解が違いますね。もっと言うと懲戒免職の理由にはならなかったですが、区民的に一番大きな関心事は、最初にやったようにホタルの飼育実態があったのかどうか。
- 467 渡邊：先生は実態が無いと思っているのですか。
- 468 松崎：なかったというか疑わしいというのはまだありますよ。あそこでホタルが殺されたというのであるならば、死骸がね。
- 469 渡邊：まともにそれやったら公務執行妨害になりますよきっと。そういう風なこと言われかねないですよ彼らから。そんな状態でそれに拮抗しろというのですか。  
井上さんがねカワエナをつぶしていたときにそれを止めるというのですか。先生は。

- 470 松崎：カワニナを潰しているという行為をやらせたこと自体、ボランティアスタッフが要求したことでしょう。
- 471 渡邊：知りません。誰が要求しようが何しようが井上さんがそれをやっていますか。
- 472 松崎：カワニナの殻の中にホタルがいるかどうか確かめるために。
- 473 渡邊：先生あの幼虫の様子を見てああいうつぶし方をしたらどうなるかすぐわかるでしょう。
- 474 松崎：元々殻を潰しているところをクローズアップされていますが、その前にさっきの映像にもありましたけど殻の中にカワニナがいるか貝殻なのか貝殻だとしたらホタルがいるかどうか、のぞいて確認してから調査が終わってほかされちゃった後の、殻を阿部さんが割ったわけですよ私もあれは礼儀正しいとか適切な行為とは思っていませんけど。あれでホタルを潰したということになるとそれは違うと思います。
- 475 渡邊：先生ね、ホタルを誰も見つけられていないんですよ。見つけられていない人たちがあの中にホタルがいないといえますか。
- 476 松崎：見つけられていないと言うことでいうとあそこの場でビデオを撮っていた人たちも見つけられていないし。
- 477 渡邊：いや見つけられていますよ。あんなごそっとやってね。黒々した中にビデオを写しているだけでは見えませんよ、そりゃ。だけど一部の中に幼虫が見えますねと言うのがあったでしょう。
- 478 松崎：あの矢印とか丸がついている。あれも誰が解析して誰が判断したのかによりますよ。
- 479 渡邊：こちらですよもちろん。
- 480 松崎：阿部さんでしょ。

- 481 渡邊：阿部さんだけでなくボランティアの人が大体見たら幼虫ですねとわかります。
- 482 松崎：僕らが求めたいのはボランティアとか阿部さんじゃなくほんとの第三者ですね。第三者が映像を解析するなりしてこれはホタルだと判断出来れば私の疑いもぐっと少なくなるんですけど。
- 483 渡邊：まあちょっとじゃあ聞いて下さいよ。専門家に。
- 484 松崎：私も聞きましたけどあれを見たけどあの映像だけではホタルかどうか。
- 485 渡邊：誰に聞かれたんですか。
- 486 松崎：自然教育センター。
- 487 渡邊：自然教育センターの人はわからないですよ。わからないからああいう評価しか出来ないんだから。
- 488 松崎：そこんどこもね、見解が違っててね。
- 489 渡邊：あの調査の実態を見てあれが専門家としての調査であると思いですか。
- 490 松崎：はい彼らは。
- 491 渡邊：思ってるんですか。あれをみても？あれが生態調査の名に値するものでしたか？
- 492 松崎：はい。
- 493 渡邊：はい？どうして？
- 494 松崎：どうしてって生態調査してるからですよ。
- 495 渡邊：あの実態ですよ。手でかき分けてザルでござござやってね。それはいいですけどじゃなくて。
- 496 松崎：私は手でかきわけたくらいで私はホタルは死なないと思います。
- 497 渡邊：はいやー。



- 498 松崎：実際阿部先生もホテルを手でつかんでいたんでいらっしゃるやい  
ましたよね。
- 499 渡邊：あれは乗せてるんです。
- 500 阿部：かき回すとちよっと難しいかなと。
- 501 松崎：石だって結構早くひっくり返したりしていましたよね。
- 502 阿部：ひゅっとやって戻すんです。
- 503 松崎：その程度だと思います私は。
- 504 渡邊：あいやー。
- 505 松崎：生き物である以上、水をかけた位では死んだりしないと思は思  
います。自然界では台風もあるでしょうし、あれ位の沢だったら  
魚もいるでしょうし、あのタヌキやなんやらが追いかけて回すこ  
ともあるでしょう。  
それでもホテルは絶滅なんかしないわけですから当然あれ位の  
ことではまあ何匹かはね亡くなるかもしれませんが7万という  
数があの当時いるならば7万がそっくりいなくなることはちょ  
っと考えられないと思います。
- 506 渡邊：忘れないようにチェックしないと。まあ小山町についてはもう  
説明しなくていいですか。
- 507 松崎：何かされたいことはあるのですか。
- 508 渡邊：小山町に関して証拠関係ですけど小山町からの。
- 509 松崎：すごい資料がありますねグラウンド整備の。
- 510 渡邊：まあとりあえずお渡しして。
- 511 松崎：ありがとうございます。これは僕らも見えてなかったの。
- 512 渡邊：ただこういったものはとりあえず区議会でやりとりするとき  
は、使っていただいて結構ですけどネットとかには使わないで  
下さい。

- 513 松崎：わかりました。
- 514 渡邊：それとまあちよっとあんまりご理解いただけなかったようで  
すけど残念なんですけど我々としては先生のツイッターとかこ  
れもじゃあお待ちかもしれないですけど一応ナノ銀に關しても。
- 515 松崎：ナノ銀まで。
- 516 渡邊：ナノ銀に關しては先生がツイッターでやられちゃってるから。
- 517 松崎：ナノ銀に關しては阿部さんやりすぎだと思いますよ。
- 518 渡邊：先生がやり過ぎなんじゃないかと私は思ってるんですけど。
- 519 松崎：そうなんでしょうけど。
- 520 渡邊：とりあえず最後にこちらからの要求をさせていただきますけ  
ど先生のナノ銀に關するインチキ、インチキまがい、偽装は書い  
てなかったっけ。まずインチキというような表現のまやかしか  
か、インチキ科学とかそういうような表現に關するもの全て削  
除していただきたい。  
それとホテルについても偽装という領域を超えて先生は育てて  
いなかったと斯言されている表現になっていると私は思います。  
違いますか。
- 521 松崎：今の段階ではそういわざるをえないなぜならば。
- 522 渡邊：いわざるを得ないとかあのそこはそれについても偽装と  
いう表現を含めてこちらとしては消していただきたい。
- 523 松崎：証明していただければ消しますよ。
- 524 渡邊：我々としてはこれで十分かと思ったんですけど。
- 525 松崎：ホテルが殺されたっておっしゃるけど一匹も死骸が出てこな  
いのはおかしいと思います。阿部さんが当時その場にいたにも  
かかわらずそこまで詳しい方ならば。
- 526 渡邊：先生ね、阿部先生はあの現場にいられないんですよ。

- 527 松崎：いられないにしても。
- 528 渡邊：気持ちが悪くありませんか、いられないという気持ちが。
- 529 松崎：わかりません。
- 530 渡邊：わからない。
- 531 松崎：26年間育ててきたホテルが他人の手で殺されてるわけですよ。
- 532 渡邊：だからいれなくなるんじゃないですか。
- 533 松崎：いられなくてって普通だったらホテルをなぜ救おうとしないのか、さっき説明の中に水戸黄門みたいのでてくる人がいなかったとおっしゃるけど、あの場で水戸黄門になれるのは阿部先生しかいなかったですよ。
- 534 渡邊：先生のように勇敢な行動をとれる人がいませんよそんなに。
- 535 松崎：勇敢程度で無いと思いますよ。
- 536 渡邊：インチキ科学やめていただきたい、ホテル偽装についてはやめていただきたい。
- 537 松崎：わかりました。
- 538 渡邊：削除していただきたい。  
それと阿部先生に対する消極的な評価をしている懲戒理由にかかわる部分でいわゆるなんと言うんでしょうか利益誘導的なことをしていた経済的利益の追求をしていたかごときの表現は全て削除していただきたい。
- 539 松崎：今は現にそのことが疑われている段階ですから。
- 540 渡邊：疑われてませんよ。
- 541 松崎：私は疑っています。ですから阿部さんにはその辺の所について説明して欲しいと思っています。
- 542 渡邊：議会において先生が質問される問題と先生がブログやツイッ

- ターで表現するのでは質が違ってきます。その問題が我々解消されない限り先生に対してアクションしなければならなくなる。
- 543 松崎：それは困りますけど。でもその前に板橋区の職員としての地位の復活をお望みになるならば。
- 544 渡邊：復活を望んでいなくて懲戒を取り消して欲しいということですね。
- 545 松崎：同じことなんじゃないですか。
- 546 渡邊：結果としてはそうですね。法的にはそうですね。
- 547 松崎：そうすると私は阿部さんには公務員としての？？【2時間8分10秒】取って欲しいしより大きな不正があるのならばきちんとして欲しいし、ナノ銀の話にしたって私が許せないのはホテル館の周辺の放射線量を計ってそれを元に実験なさっているということをこの間の7日の発表会の時におっしゃっていたようですが、それはやっぱり子供たちの安全を考えた時に実験をする前に国に報告をするなりして。
- 548 阿部：しましたね。環境課に。
- 549 松崎：しましたねって環境課になってないんですよ。  
環境課がそれも。
- 550 阿部：当時エコポリスセンターでしたね。
- 551 松崎：きちんとして区の報告に上がってないわけでしょう。  
阿部さんが報告したとしたら少なくとも握りつぶされたんですよ。区としての公式見解にはなってない。
- 552 渡邊：握りつぶした方の責任を追究してくださいよ。
- 553 松崎：だけどそのままそれをですよ。本にも書いてああいう場で発表もして私は外れた行為だと思いますね。



しかもナノ銀で除染が出来るという話ですぐにですよ遠遊セットなるものを作って販売をしていなかったにせよ配布なさったということについては板橋区の職員として手順を踏んでない行為だというふうに思いますので。

私はナノ銀で除染が出来るという考え方は非常に危険だと思っていますよ。

- 554 渡邊：先生それね。
- 555 松崎：それを警告する意味でもやっぱりあれは信じている人がいるのなら疑って下さいという意味でいんちきまがいなりいんちなりという表現を使う。
- 556 渡邊：先生そういう言い方がまずい。
- 557 松崎：まずいかどうかわかりませんが。
- 558 渡邊：それは先生がやることでないですよ。表現すべきことでない。
- 559 松崎：他の人がやらないんで私はこういうことで色々調べてそういう考えに行き着きましたから、それはやっぱり知ったものとして。
- 560 渡邊：科学に対して未知のものに対して我々は謙虚にあるべきですよ。
- 561 松崎：全然謙虚じゃないんじゃないですかナノ銀の効果については。
- 562 渡邊：もうやめましょう。終わりました。
- 563 阿部：先生のお考えですね先生が調べた中ですもんね。すいませんお忙しいときに。申し訳ないどうもすいませんありがとうございました。
- 564 松崎：これでよろしいのでしょうか
- 565 渡邊：先生はいろんな情報を阿部先生に関する個別的な情報もおとりのようですけどそういうのは井上課長から取ってるのですか。
- 566 松崎：いいえ、井上課長は教えてくれませんよ。私自身で調べました

よ。井上課長は私が調べてこういうことがあったぞというそのときになって初めて認めるのです。確かにそうだと。

そういう関係です。井上課長は私なんかよりももっとももっといろいろなことを調べて確信を持っていますよ。

ですから、こういうことも井上課長がいるところでやった方が効果的だと思いますよ。

- 567 渡邊：井上課長は裁判でやりますから裁判の中で我々は彼を追求します。
- 568 松崎：井上課長から何も情報をもらってないかというと議会と議事者の関係でこういう資料なんかは請求してもらいましたが、それくらいなもんですよ。
- 569 渡邊：わかりました今日はこれで。
- 570 阿部：ありがとうございました。
- 571 渡邊：とりあえず我々としては何日間か見てそのブログとかツイッターとかの削除されたかどうかを確認させていただきます。
- 572 松崎：ご自由ですけど。  
我々も阿部さんがああいうふうになノ銀で除染が出来るのかとか板橋区のホテル館の名前でなされてやったことを問題視していますから、板橋区の名前でナノ銀で除染が出来ると言ったことを板橋区議会議員として否定をしているということは必要だと思ってるから。
- 573 渡邊：板橋区の名前でやってないでしょ。
- 574 松崎：いやそんなことない。

以上